



みわを元気に



三和地域協議会ニュース 第29号 令和2年1月9日発行

三和地域の人口・世帯数
男 1,579人
女 1,652人
合計 3,231人
世帯数 1,668世帯
(令和元年11月末 現在)

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

みわ子育て講演会

心も脳もぐんぐん伸びる 親子ふれあい運動遊び

昨年度に開催して大好評だった「運動遊び」を、今年も開催します。

日時：1月26日(日)

午前10時～11時30分

場所：三和荘 多目的ホール

講師：仲義 健さん

(豊岡市教育委員会 子ども育成課)

動きやすい服装で、タオル・飲み物持参でお越しください。

寒い時期ですが、親子でふれあいながら体を動かして、心も体もあたたまりましょう。



昨年の様子



今年はまだ1回、子育て講演会を行います。岐阜県から劇団なんじゃもんじゃさんをお招きし、芝居「さよなら▲また来て■ます」と、子育て

についてのお話をさせていただきます。

日時：3月1日(日)

午前10時～11時

場所：三和荘 多目的ホール

講師：劇団なんじゃもんじゃさん



のお話をさせていただきます。
入場は無料です。



お芝居を楽しんだ後、4人の子育てをしながら長年ご夫婦で劇団として活動しておられるお二人に、質問に答えながら、子育

明けてましておめでとうございます。昨年は色々とお世話になりました。協議会の事業について振り返りますと、三和地域の地域公共交通として始めた「みわひまわりライド」も3年目に入ります。住民の方々の利用が増え、住民の方々の交通手段として欠かせないものになってきています。今後も運転手の増員など、事業を持続していくことに力を入れていきたいと考えています。



三和地域協議会
会長 松下 正美

三和荘問題については、三和荘存続住民会議を立ち上げるなど、存続に向けて行動しているところです。三和荘問題に加え、生活基盤部会にて地域包括ケアについて話し合い、取り組んでいこうとしています。自分自身も勉強しながら、まちを想う人たちが専門家の知恵をお借りして、住みやすい地域について考えていきたいと思っています。

また、交流・連携部会については、まだ形はできていませんが、大学や企業と交流し、その力をお借りしていきたいと考えています。地域活力部会では、600名の方がお越しくださいと「みわ子どもまつり」や、



みわとしょかん まつり

初めての開催で大盛況！



12月7日に、三和会館2階ホールにおいて「みわとしょかんまつり」を、初めて開催しました。会場いっぱいの人で、福知山で活躍されている4団体のボランティアのみなさんにお世話になりました。まずは、三和の保育園でもおはなし会をされている「ぶつくらこ」さん。2人の顔が見えると、子どもたちから歓声が沸きました。ひつじの手袋人形と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、会場中が温かい雰囲気になりました。

次は、「へのへのもへじ」さん。ペープサートや本のクイズなど楽しいお話の後、ピアノとフルートと共に絵本『森のオーケストラ』を朗読してもらいました。その世界に、子どもも大人も引き込まれました。

まね、感動で涙する人も。そして、「みかんの木文庫」さん。クリスマススタンダムでは、三角形や四角形の箱が、音楽と共にいろいろな形に変わって、最後には、素敵なクリスマスプレゼントになりました。人形劇では、絵本「ねえ、おきてー」から飛び出した人形たちの動きが、楽しくて、おもしろくて。最後には、笑顔いっぱい、大きな大きな拍手でした。親子工作は、工作くらぶ「パピプ」さんによる「おしゃやれな帽子」。新聞紙で作った帽子にカラフルな飾りをいっぱいつけてすてきな帽

この1年間の授業の成果と学生たちなりに考えたことを発表する機会として、報告会が実施されます。日時は1月23日(木)午後1時から三和町農業振興センター2階で、誰でも参加することができます。



地域子ども文庫の学習では
みかんの木文庫の人形劇鑑賞も

はこれからの授業のコーディネート役を務め、講師の依頼や調整役を担っています。

福知山公立大学では、地域に密着した大学の授業として「地域経営演習」に取り組んでいます。今年度も昨年4月から矢口・中尾ゼミの1回生と3回生19人が、毎月2回三和町に入って地域の様々な取り組みを素材に、学習を進めてきました。ゼミでは当初に三和地域の地勢や住民生活と地域交通の課題などを学び、地域内の事業者にお願いして新しい農業の取り組み、工業団地への立地経過、三和荘の指定管理制度の現状などについて、それぞれ講師をお願いして講義をうけました。また、後期は京丹波町の(株)京都環境保全公社の最終処分場を見学して廃棄物処理の最先端を学び、三和中学校の生徒との懇談などを行うほか、「三和ふれあいフェスティバル」の模擬店へも昨年に引き続き参加しました。新たな分野では「地域子ども文庫」などに取り組み、学ばせる機会を設けました。現在、学生たちは興味あるテーマごとに、4つのグループでさらに考察を深めています。

公立大生が地域連携授業の成果発表

1月23日午後 農業振興センターで、参加自由



大槻 由美子



9つのグループで意見交換

丹波地方3市（福知山市、朝来市、丹波市）が主催する「3市連携まちづくり互近助サミット」が、12月14日に丹波市氷上町で開催されました。

まちづくりをすすめる地域自治組織の交流を図ろうと、昨年度から実施されているもので、3市のまちづくり組織の役員や市職員計80人が参加し、それぞれの活動の現状や悩み・課題について交流を深めました。

今年度は事例発表で福知山市の夜久野みらいまちづくり協議会の「まちづくり部会活動」、丹波市の氷上町中央地区自治振興会の「助成金によるサークルづくりと人材発掘」、朝来市からは与布土地域自治協議会の「移住者支援と起業支援」についての報告がありました。

それを受けて参加者が9つの

まちづくり事業で連携・意見交換 「3市連携互近助サミット」で交流

組織もあり、今後の方向性などはいくつかの事例が参考にされています。今後はこれらの取り組みに参加することにより、三和地域協議会の活動をより発展させていきたいと思われました。

グループに分かれて意見交換。活動財源の確保や若者の参加、移住者へのサポートなどについて活発に意見を交わしました。

その後の全体会で、昨年度事例報告した「みわひまわりライド」のその後の運営状況についての質問があり、利用者が増加している状況を述べたが、どの地域においても地域交通の確保、とりわけ高齢者の移動手段について関心が高まっていることを痛感したところでした。

朝来市と丹波市の住民組織は、基本的に小学校区を単位としていますが、人口の面では三和地域より大きい組織もあり、その活動や今後の方向性などはいくつかの事例が参考にされています。今後はこれらの取り組みに参加することにより、三和地域協議会の活動をより発展させていきたいと思われました。



「みわひまわりライド」への質問に答える

ラジオは… 包括支援センター



スタジオの様子

FM丹波で月々金曜午後4時から放送中の番組「七色バラエティワイド」内で隔月1回、三和地域協議会が三和地域の情報を発信している「みわを元気に」のコーナー。第15回が昨年12月18日に放送されました。

今回は、三和地域包括支援センターから上原亜弥さん、工藤尋さんをお迎えし、包括支援センターの取り組みや、

「相談する」とがなくても、気軽に立ち寄りください」と話される上原さんと工藤さん、普段は三和支所窓口相談係の隣のスペースにいらつしやいます。とても気さくなお二人ですので、一度お話しに行ってみてくださいね。



上原さんと工藤さん

ご自身のことなどについてお話いただきました。

上のQRコードを携帯電話やスマートフォン・タブレットで読み取り、出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。（通信料がかかります）



三和地域に必要な「地域包括ケア」を考える ―生活基盤部会で制度や地域の現状を研究―

三和地域が住み続けられる地域であるために、生活基盤部会（後藤定司部会長）では地域住民の生活をまもるべく必要な様々な課題について、調査研究することを目的として活動しています。

協議会発足後の2年間は、生活交通のあり方について検討し、「みわひまわりライド」（公共交通空白地有償運送事業）の実施につなげることができました。

その後の2年間は地域住民自治の維持継続をテーマに、様々な調査やアンケートを実施し、三和地域の自治会活動やコミュニティ活動の疲弊に対処する手法などについて研究を進めました。この課題は根底にある少子高齢化や過疎化の課題と同じく、簡単に処方箋が打ち出せるものでないため、実態調査から踏み出せないまま継続課題としています。

そんななかで、介護保険制度が財政的に厳しさを増していることを背景に、急

速に「地域包括ケアシステム」の導入を図られようとしています。

厚生労働省の定義によれば、「地域包括ケアシステム」とは

『団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。』

今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活



を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。』

とされています。

福知山市においても中学校区単位に「包括ケアコーディネーター」を配置して、様々な事業を立ち上げようとしています。生活基盤部会では「地域住民の理解と協力」のもとで、このシステムが有効なものになるよう、調査研究を進めることにしました。

部会のメンバーは自治会長会・民生委員・老人クラブ・社会福祉協議会の代表や、三和翠光園・みわの里など事業者からも参加いただきました。福知山市役所からは高齢者福祉課と三和支所・包括支援センターからも職員が参加しています。

8月19日の第1回部会以来、昨年中に5回の部会を開催し、国の方針や市の計画、他地域での取り組みなどについて報告を受け、三和地域の現状を出し合う中で、様々な検討を進めています。

今後、アンケートや懇談会などを通じて、住民の皆さんの現状や要望を聞かせていただいたり、ボランティアへの参加をお願いしたりすることになりますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



第5回生活基盤部会での熱心な討論

第22回

福知山市より

はばたきフェスティバル

男女共同参画社会の実現に向けた情報交換や交流を図ることで、様々な世代の理解を深め、すべての人が幸せを実感でき、自分らしく生きられる福知山市をめざして開催します。

◆10:00～

★カフェ、手作りコーナー、バザー、アニマルパルーン、絵本の読み聞かせなど（～12:45）

★男性の料理教室

材料費：500円 定員：20人

※1月31日（金）までに要申込（先着順）

★体操スワロビクス（～10:30）

◆10:35～11:35

★笑いヨガ

◆10:50～11:50

★ミニ講座と寸劇「電話で現金 それは詐欺!!」

福知山警察署と福知山平安レディースの皆さん

◆11:00～12:45

★やってみよう！脳トレ・健康麻雀

◆13:00～15:30

★講演会「男性介護者の問題について」

講師：津止 正敏さん（立命館大学教授）

※要約筆記・手話通訳・赤外線補聴システムあり、

保育ルーム（2月7日（金）までに要予約）

<お問い合わせ>人権推進室・男女共同参画センター

電話：24-7022 FAX：23-6537

2/16(日)
10:00～15:30

ハピネスふくちやま
にて

